

妖刀の件を終えて暫くが経ち
ある日、私に恋人ができました



人と妖という立場上、会うことのできる回数も多くはないので
いつもその日はまず肌を合わせることから始まります

お酒でぼかぼかになった身体に
脳まで蕩かすような熱い接吻

まるで舌が
溶けてしまったのよ様な熱

この瞬間

心地良い一時・・・

前戯はせずとも既に身体は出来上がっていて
早く早く子宮が一物を求めます

経験数はどちらかと言えば多い方がと思うのですが
身体の相性が良いとでもいうのか
彼との行為は格別です♡

互いに「痕」を付けあって

互いが「所有者」なのだ
と主張しあって

互いに番であるのだと
伝え合う



ウチの♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

♡♡♡
♡♡♡

時折少しの休憩を挟んで



また元気を取り戻したなら



さつきよりも更に
重く、激しく



秘部を貫いた肉棒が
身体の内から決り回すその息苦しさを
快楽へと昇華させていってー

絶頂と共に
子宮の中を丸ごと上書きしていく

強い雄に抱かれるという
雌にとっての極上の「褒美」を

一夜でありながら
何度も、何度も味わせていただいています♡



ちなみにですがその後は
「でえと」なるものを楽しんだ後

せっかくなので里に招き
ナリハ様に紹介しようとしたところ、
彼の髪の毛がほんの少し燃える(燃やされる)
という事件が発生しましたが―

それは別のお話ということだ

















